

昭和62年度地質調査所の出版物

資料室

Publications Office & Library

- 1 : 200,000 地質図幅
御蔵島 新庄及び酒田 浜田
- 1 : 50,000 地質図幅
- 地域地質研究報告 (5万分の1図幅)
 - 五日市 (東京—49) 雫石 (秋田—14)
 - 計根別 (釧路—10) 矢島 (秋田—38)
 - 鶴御崎 (高知—87) 萩原 (金沢—60)
 - 角田 (新潟—16) 御嶽山 (金沢—61)
 - 三田 (京都—37) 別府 (福岡—75)
- 海洋地質図
 - No. 31 スミスリフト及び鳥島リフト海底地質図
- 火山地質図
 - No. 1 桜島火山地質図 (2刷)
- 特殊地質図
 - No. 12 富士火山地質図 (1 : 5万) 第2刷 (説明書つき)
 - No. 21-4 八甲田地熱地域地質図 (1 : 10万) (説明書つき)
 - No. 23-2 筑波研究学園都市及び周辺地域の環境地質図 (1 : 2.5万) (説明書つき)
 - No. 26 伊豆大島火山1986年の噴火 (修正2刷)
 - No. 28-1 海底地質音響画像図—豊後水道南部— (1 : 1万)
- 地質図目録図
 - 1988年版
- 地質調査所の地質図
- 地質調査所年報
 - 昭和61年度
- 物理探査・調査研究一覧
 - 第30集
- CCOP Technical Bulletin Vol. 19
- 地質文献目録 1979
- 日本地質文献目録 1987
- 英文出版物目録補遺 (Publications of the Geological Survey of Japan—Supplement—Publications issued in 1982—1987)
- 地質調査所報告
 - No. 267号 日本の主要地熱地域の熱水に適用した地球化学温度計
 - No. 268号 栗駒地熱地域における研究
小川克郎：巻頭言
- 長谷紘和：栗駒地熱地域研究のとりまとめの背景と経緯
- 山田菅三・長谷紘和：栗駒地熱地域における研究成果の概要
- 笹田政克：鬼首カルデラ内 KR—1 KR—5 坑井の先新第三紀基盤岩類
- 阪口圭一・山田菅三：鬼首カルデラ周辺の火砕流堆積物—いわゆる北川石英安山岩—の再検討
Eizo YAMADA : Geologic development of the Onikobe caldera, Northeast Japan, with special reference to its hydrothermal system
- 竹野直人：栗駒北部地熱地域の地質
- 比留川 貴・阿部喜久男：鬼首地域の熱水中のトリチウム濃度及び KR—1号井と KR—2号井からの地熱流体の化学組成
- 高島 勲：鬼首地熱地域の熱水系
- 金原啓司：栗駒北部地熱地域の岩石変質と地熱系
- 杉原光彦・石戸経士：鉛直断裂内熱水流動による地熱貯留層形成モデル
- 駒沢正夫・村田泰章：栗駒地熱地域の重力解析
- 小川康雄・内田利弘・佐藤 功・菊地恒夫：鬼首カルデラにおける MT 法探査データの解釈
- 地質調査所月報 第38巻 第5号
Katsuhiko TSUKIMURA, Kohei SATO and Shunso ISHIHARA : Regional and temporal variation in FeS content of sphalerites from Japan and its relation to granitoids series
- 伊藤久男・杉原光彦：岩手県滝の上地域における微小地震観測システム
- 加藤碩一・檀原 徹：大町テフラ層下部層に挟まれるクリスタル・アッシュのフィッシュン・トラック年代
- 講演要旨 (第181回研究発表会 第1部 個別研究報告 第2部 1986年伊豆大島火山噴火緊急調査報告)
- 地質調査所資料集, No. 31, 32, 33
- 地質調査所月報 第38巻 第6号
佐藤隆司・楠瀬勤一郎・西沢 修：ミニコンピュータを用いた AE 波形計測処理システム—高速デジタル記録と自動震源決定—
- 高橋正明：三河湾西部の表層堆積物に含まれる硫黄

化合物の同位体組成

- 桂島 茂・寒川 旭・橋本知昌・宮崎純一・渡辺和明・斉藤英二：静岡県御前崎地域の活構造
- 金沢康夫・月村勝宏・堀内弘之：鉱物の結晶解析計算システム（Ⅲ）
- 講演要旨（第182回研究発表会 特集 地震化学・岩石物性）
- 地質調査所研究資料集, No. 34
- ・地質調査所月報 第38巻 第7号
- 山田宮三・阪口圭一：伊豆半島南西部の新第三系の層序と地質構造
- 笹田政克：豊肥地域の先第三紀基盤岩類
- 田中信一・金谷 弘：熊野酸性岩の2-3の物理定数—密度・帯磁率・超音波速度について—
- ・地質調査所月報 第38巻 第8号
- 吉田久昭・河田清雄：兵庫県東部、篠山・三田間における有馬層群の概要
- 杉山雄一・寒川 旭・下川浩一・水野清秀：静岡県御前崎地域の段丘堆積物（上部更新統）と更新世後期における地殻変動
- 吉田史郎：三重県中新統阿波層群の浮遊性有孔虫化石
- 地質調査所研究資料集, No. 36, 37
- ・地質調査所月報 第38巻 第9号
- 米谷 宏・狛 武・鈴木尉元：新潟堆積盆堆積岩中のノルマルパラフィンの地球化学的研究
- 加藤 完・高橋 誠・吉川清志：αトラック方による活断層モニタリングとその観測条件の検討
- 柳沢文孝・酒井 均：ディクソン型熱水反応装置用小型蓋金の製作
- 講演要旨（第183回研究発表会 特集 西南日本中・古生界研究の現状）
- ・地質調査所月報 第38巻 第10号
- 臼井 朗・水野篤行・盛谷智之・中尾征三：中央太平洋海盆北部・中部のマンガン団塊—「深海底鉱物資源探査に関する基礎的研究」の成果—
- 金井 豊：イオンクロマトグラフィーにおける陰・陽イオンの保持挙動と陸水分析への応用
- ・地質調査所月報 第38巻 第11号
- 特集 伊豆大島火山1986年の噴火
- 小野晃司・佐藤壮郎・小玉喜三郎・富樫茂子：伊豆大島火山1986年の噴火に際して行った地質調査所の観測研究—特集の序にかえて—
- 曾屋龍典・阪口圭一・宇都浩三・中野 俊・星住英夫・鎌田浩毅・角井朝昭・金子信行・山元孝広・土谷信之・須藤 茂・山崎晴雄・山口 靖・

奥村晃史・富樫茂子：伊豆大島火山1986年の噴火の経過と噴出物

- 中野 俊・山元孝広：伊豆大島火山1986年噴出物の主成分化学組成
- 遠藤秀典・釜井俊孝・角井朝昭：伊豆大島火山1986年の活動に伴って島内の広範囲に形成された地表割れ目
- 遠藤秀典・釜井俊孝・角井朝昭：伊豆大島における伸縮観測
- 風早康平・加藤 完・高橋 誠・安藤直行・大隅多加志・平林順一・日下部 実：ガスセンサーによる伊豆大島割れ目土壌ガス中の水素ガスモニタリング
- 加藤 完・風早康平・安藤直行：αトラック法による伊豆大島火山1986年の噴火に伴う割れ目調査
- 高橋 誠・風早康平・加藤 完・安藤直行：自動ガスクロマトラフを用いた地下ガス観測による伊豆大島火山活動のモニタリング
- 田口雄作・安原正也：伊豆大島における地下水水位等の連続観測
- 高橋正明・阿部喜久男・野田徹郎・安藤直行：伊豆大島地域の地球化学的研究
- 村田康章・牧野雅彦・中塚 正：伊豆大島テレメータ受信システムの構築
- 長谷川 功・伊藤公介・小野晃司・相原輝雄・楠瀬勤一郎・佐藤隆司：爆破地震による伊豆大島の地下構造—横断測線
- ・地質調査所月報 第38巻 第12号
- 横倉隆伸・加野直己・渡辺史郎・山口和雄・牧野雅彦・二宮芳樹：茨城県玉造町における反射法地震探査結果—新第三系下の覆在断層の発見
- 加藤 完・高橋 誠・吉川清志：αトラック法による南関東—東海地域活断層のラドン濃度の定期観測結果
- 狛 武：電量滴定および高周波燃焼法を用いた岩石、堆積物中の全硫黄の定量
- 水野清秀・杉山雄一・下川浩一：静岡県御前崎周辺に分布する新第三系相良層群及び掛川層群下部の火山灰層序
- 地質調査所研究資料集, No. 38, 39
- ・地質調査所月報 第39巻 第1号
- 特集 伊豆・小笠原弧, スミスリフトの地質学・地球物理学的研究
- Fumitoshi MURAKAMI: Structural framework of the Sumisu Rift, Izu-Ogasawara Arc
- Glenn BROWN and Brian TAYLOR: Sea-floor

- mapping of the Sumisu Rift, Izu-Ogasawara (Bonin) Island Arc
Akira NISHIMURA and Fumitoshi MURAKAMI: Sedimentation of the Sumisu Rift, Izu-Ogasawara Arc
Toshitsugu YAMAZAKI: Heat flow in the Sumisu Rift, Izu-Ogasawara (Bonin) Arc
地質調査所研究資料集, No. 40, 41
- 地質調査所月報 第39巻 第2号
竹内圭史: 中越地域鮮新—更新統中の火山灰層のフィッシュントラック年代
石原舜三・柴田 賢・内海 茂: 白亜紀—古第三紀花崗岩類に伴う鉍床の鉍化年代—1987年における総括
池原 研・木下泰正・西村清和・中村光一・川幡穂高: 大隅海峡にみられるペッドフォームの形態と分布
Eijun OHTA, Ramazan DOGAN, Hasan BATIK and Masayuki ABE: Geology and Mineralization of Derekooy Porphyry Copper Deposit, northern Thrace, Turkey
 - 柴田 賢・大坪友英・丸山孝彦: 飛驒山地打保複合花崗岩体の Rb—Sr 全岩年代
地質調査所研究資料集, No. 42, 43, 44, 45, 46
地質調査所海外研究資料集, No. 45
 - 地質調査所月報 第39巻 第3号
犬塚則久: 北海道歌登町産 *Desmostylus* の骨格 I. 頭蓋
藤井敬三・鈴木祐一郎: 炭質評価のパラメーターとしてのビトリニット反射率とスポリニット蛍光性との比較
講演要旨 (第184回研究発表会 特集 昭和61年度重点基礎研究成果報告)
 - 地質調査所月報 第39巻 第4号
Jiro HIRAYAMA, Terumasa NAKAJIMA, Sailendra B. SERESTHA, Tara P. ADHIKARI, Ramesh M. TULADHAR, Jayandra M. TAMRAKAR and Gyani R. CHITRAKAR: Geology of the southern part of the Lesser Himaraya, West Nepal
Shigeru TERASHIMA Mehmet F. TANER, Junkichi YAJIMA and Shunso ISHIHARA: Geochemistry of the Pontids granitoids in Turkey

「神々の遊ぶ庭—北の自然はいま」

築地書館刊 1987. 9

神々の遊ぶ庭=カムイミンタラとはアイヌ語で 大雪山系のなかにある比較的平坦な地形を言うらしい。アイヌの考え方では 熊をはじめ人々に食料を与え 人々の生活をささえてくれるものすべてが神である。

この本は 八木健三北大名誉教授を始めとする北海道自然保護協会編集の 北海道にかかわる自然保護問題を扱う各種の論文を集めたものである。千歳川放水路は水害に役立つのか(八木健三) 幌延問題を考える(八木健三) 日高山脈に道路はいらない(鮫島惇一郎), 自然の賢明な利用のために(辻井達一) 神々の遊ぶ庭はいま(寺島一男) など 11名の著者による13編のきわめてホットな問題を扱った力作が集められている。

この本の中で述べられている事だが 自然保護運動にも色々な考え方があるらしい。たとえば「原生花園は放牧場であったので美しかったが 現在は人手を加えていないために牧草が勢いを得て花々を弱らせている」ということで 「保全すべき自然には一切の人工を排除する」という立場ばかりではない。とはいえ 「一度いちじるしく破壊された自然は 容易には回復できない」というのは 共通認識であろう。

土地の所有者が自分の土地をどのように使用しようと自由であるという考え方が有るかもしれない。しかし ずうっと昔にさかのぼって考えれば 土地は誰のものでもなかった。強いて言えばそれは人々の共有である。農耕や林業をやるには土地の私有は歴史的必然であったかもしれない。しかし今 熱帯雨林の乱伐によるなどの 地球規模の環境破壊が危惧される時代となって 単に土地所有権のみを考えれば良い時代は終わっている。人間の生活のためには自然の変革はさけて通れないがその時にも 原子力利用でいわれている「自主・民主・公開」に似た適切な基準が必要ではなからうか。

私達地質にたずさわる者は ふだんは目立たず 特に日本では良く知られていない存在である。けれども 幌延でも池子弾薬庫跡地でも 最初に行われたのは地質調査であることが報道されている。地質屋が否応なく自然破壊の先兵とされているのは悲しいことである。私達も一市民として また宇宙船地球号の一メンバーとして かけがえのない自然のことを考えてみる時であろう。この本は その参考資料として最適と言える。